

インド・デリー市のサイクルリキシャ部門 DB

<概略>

2012年10月

目的: インドにおける都市インフォーマルセクターと農村からの労働移動に関する事例研究として、インド・デリー市におけるサイクルリキシャ業の概要を把握する。

共同研究者: 黒崎卓（一橋大学経済研究所、プロジェクトリーダー）、Asit Banerji, S. N. Mishra, A. K. Mangal (Centre of Economic and Social Research, Delhi)。

対象: インド・デリー市MCD (Municipal Corporation of Delhi)管轄12 Zones 中、11 Zones。リキシャ引きおよび出稼ぎリキシャ引きにサイクルリキシャを賃貸するリキシャ親方。

調査時期: 2010年12月から2011年2月。

サンプル規模: デリーの行政区の構造 Zone-Ward-Colony を利用した空間的サンプリング(areal sampling)に基づくリキシャ引き1,320名のクロスセクションデータ。リキシャ親方132名のクロスセクションデータ。

今後の調査・作業予定: リキシャ引きの出身農村部を対象とした農村調査・標本家計調査。

これまでの主要なファインディング:

- ・他に資産を持たない農村からの短期的出稼ぎ者が就く典型的な仕事の一つがサイクルリキシャ引きであり、その仕事は農村にいるときよりもはるかに良い稼ぎになる。
- ・サイクルリキシャ引きの大多数は、農村でのショック等を理由にデリーにやってきた出稼ぎ者であり、送金等農村との強い絆を保持し続けている。
- ・この仕事に就くためにはリキシャを親方から借りる必要があり、そこではネットワークが重要になるし、リキシャ引きの稼ぎにもネットワークが影響している。
- ・営業用のリキシャを所有することは、所得上昇と就労時間短縮につながる
- ・最貧困州であるビハールからの移民の場合に、粗収入・所得が高く、労働意欲の高さあるいは移民ネットワークの効果がうかがわれる。
- ・教育や経験といった人的資本が収益性や所得を改善させる効果は非線形（低い水準でのみプラスの効果）である。
- ・デリーメトロの拡張によるサイクルリキシャサービス需要の増大は、リキシャ賃貸料の引き上げを通じて親方の所得を上昇させ、単位労働時間当たりの稼ぎ増加を通じてリキシャ引きの生活水準を上昇させ、リキシャ引きの総数を増加させた。